

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520816

研究課題名(和文) タイ社会における「共同性」の人類学的研究 - 社会運動経験の記憶の生成を通じて -

研究課題名(英文) Anthropology of 'communality' in Thailand

研究代表者

西井 涼子 (NISHII, Ryoko)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：20262214

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、タイにおけるフィールドワークを通じて、人間が他者とともに日常生活を送る群居性動物であるということ、**「共同性」の極限ともいえる沸騰した社会運動の記憶の語りを通じて明らかにすることである。**かつての民主化とその後の**「森に入った」**経験が彼らの現在性について持つ意味についての考察を、タイの現状の動向も注視しつつ分析を行った。そこから、記憶が再編成され、**「共同性」の複雑な様相が明らかとなった。****「共同性」とは常に現在進行形の状況的産物なのである。**

研究成果の概要(英文)：This research casts the human being as social animals, living their lives with others, and explores on the narrative memory of social movements in which human beings reach the limits of 'communality'. In Thailand many students and farmers experienced the 1973-1976 democratic movement and the collapse of democracy. Some entered the jungle to join communist activities. I have analyzed their experience in the background of the present political movements in Thailand and discovered a complexity of 'communality' because of reorganizing social memories. 'Communality' is always to be described in the present-progressive form.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：共同性 記憶 タイ 社会運動 森に入る

1. 研究開始当初の背景

近年の人類学においては共同体(コミュニティ)論の見直しがすすんでいるという学的背景がある。1980年代以降、グローバル化の進展に伴う共同性の断片化、つまりネオリベラリズムの時代における市場に直接関係をもつ諸個人へと「社会」が分断され、人々のつながりを断片化させていく現象がおきている。従来の自然な帰属とみえたカテゴリーが流動化しはじめ、従来の「共同体」の問い直しが行われはじめている。そこでは、人格的な親密さや相互扶助を伴う道徳的・情緒的紐帯と特色とする伝統的「共同体」に対して、異質な価値をもった人々が多角的に構成する空間としての公共性を対置する二元論が批判される。新たな「共同体」論は、「公共性：共同体」という二元論を越えてプロセスに焦点をあてる(「特集 共同体という概念の脱/再構築」『文化人類学』69-4、2004年、田辺繁治「コミュニティ再考」『社会人類学年報』31、2005年など)。このような共同性の探求からは、プロセスとしての共同体が、いかに生成され、変容していくのか、それは人間の根源的な共同性といかにかわっているのか、といったことがさらなる課題として浮かびかってくる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、タイにおけるフィールドワークにより人間が他者ととも日常生活を送る群居性動物であるということ、「共同性」の極限ともいえる、沸騰した社会運動の記憶の語りを通じて明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究では、その課題を、ミクロなフィールドにおける人々の行為や語りから人間社会の理論的視野を広げることを目指す人類学的手法により、申請者が20年間にわたってフィールド調査を行ってきたタイ社会の1976年の民主化運動が破綻した後に「森に入る」(khao pa) 経験をした人々の経験を通して行った。

2010年度は、バンコクにおいて、現在のタイにおける赤シャツ派と黄シャツ派に分裂した政治状況の実際の集会に参加して、インタビューを行った。さらに、タイの著名な政治学者であるチャイワット氏と意見交換を行った。

また、北タイのチェンマイおよびランブーンにおいて、北タイの森に入った経験者のライフストーリーを含めたインタビュー調査を行った。その際には、語りの状況をビデオにとり、記憶語りの分析のための資料を蒐集した。森の入った人々にもさまざまなカテゴリー

ーを見出すことができ、学生や知識人、農民、元共産党員など、共有する経験と異なる参与の仕方を見出すことができた。

2011年はかつての共産主義運動の中心の一つであった、チェンマイからラオス国境にむけて車で約6時間のパヤオ県のサンティスック村にて、モン族の元共産党員およびチェンマイの元共産党員にインタビュー調査を行った。

2012年度は、北タイのプーチーファーと東北タイのカオ・コーという少数民族モン族が拠点したかつての共産主義運動に参加した人々にインタビュー調査をおこなった。現在の土地返還運動にも直結する問題であることが明らかとなった。

最終年度の2013年度は、南タイのソクラー県、およびナコンシータマラート県の拠点で活動した森に入った人々へのインタビュー調査を行った。さらに、森から出た人々の森を出て20年後からはじまったかつての同志が組織化して記念碑をたてた場所(ソクラー県)において、年次集会に参加し、記憶の現在性について調査を行った。

4. 研究成果

タイにおいては、1973年の「10月14日政変」によって、独裁をつづけていた軍事政権が、学生運動の指導者たちを中心とした反政府運動によって崩壊し、タイ政治の民主化が進んだ。その事件は「学生革命」と呼ばれるが、デモ参加者には職業学校や高校生、一般市民も多かった。また、実際には、軍も鎮圧を拒否し、王は政府に退陣を促すなど軍・政府の協力によって成功した。その時の学生活動家は、のちに「10.14世代知識人」として政治的発言力をもつようになった。ところが、その成功は、学生運動の頂点であり、かつ衰退のはじまりであった。軍事政権崩壊後は、学生、農民、労働者の民主化運動が活発になり、1975年1月の総選挙では、左翼政党も議席を獲得した。そんな中、軍や王室などが関与して、学生主導に不満をもつ職業訓練生の一部に、武装団「赤い野牛」を組織させ、学生集会襲撃などを行わせた。1976年10月6日に、民主化運動の中心となっていたタムマサート大学を警察と右翼大衆組織が、多数の学生や活動家を殺害した。これ「10月6日事件」あるいは「血の水曜日事件」と呼ぶ。政府発表では死者46人、負傷者160人、逮捕者2000人となっているが、実際の行方不明者はそれをはるかに超えていると思われ「10月14日事件」後、多くの活動家は、「森に入り」(khao paa) タイ共産党と合流して民主主義の実現を社会主義革命へと転換させた。活動家たちは次々とバンコクやチェンマイなどの都市を離れ、タイ共産党の根拠地のあ

る森に入っていった。その数は2000とも3000人とも言われているというが、申請者のチェンマイでの予備調査では、チェンマイ大学の学生の4分の1が森に入ったともいう。タイ共産党もその活動を活発化させ、1978年当時はタイ共産党が浸透している地域は全国71県中38県に及び、同党の支配下にある村は400カ村、勢力が浸透している村は6000カ村と報告されている。しかし、1979年あたりから、学生活動家とタイ共産党のイデオロギーの対立や、1980年のブレイム政権の投降者の罪を問わないという政策によって大量の投降が始まり、多くの活動家が都市に戻ってきた。その多くがNGOやマスコミ、大学の教員となり、現在でも大きな社会的な影響力をもっている。

本研究は、すでに多くの記録のある民主化をかちとった「10・14日政変」に比べて、タイにおいても着手されたばかりでまだまとまった検証がなされていない「10月6日事件」のその後の「森の経験」をミクロな視点から明らかにするとともに第一の特色がある。またそれを分析する視点も、マクロな人間社会の共同性といった視点からなされることで、特定地域の特殊な経験ではなく普遍的な事件からの接近することで、たんなる事件誌にとどまらない視野を内包するものである。こうしたミクロとマクロをつなぐ考察により、記憶が再編成され、「共同性」の複雑な様相が明らかとなった。「共同性」とは常に現在進行形の状況的産物なのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

Nishii, Ryoko "The Legacy of Hitoshi Imamura: The Macro lies in the Micro", in Kawai Kaori (ed.) Groups- The Evolution of Human Sociality, Kyoto University Press and Trans Pacific Press 2013:339-345. 査読無

西井涼子「南タイの学校における憑依の社会空間 情動のエスノグラフィにむけて」『アジア・アフリカ言語文化研究』84、2012:141-162. 査読有

西井涼子「南タイの暴力事件にみるムスリム 仏教徒関係 東海岸と西海岸の比較から」床呂郁哉・西井涼子・福島康博編『東南アジアのイスラーム』東京外国語大学出版会 2012:123-144. 査読無

西井涼子「動員のプロセスとしてのコミュニティ、あるいは「生成する」コミュニティ 南タイのイスラーム復興運動」平井京之介編『実践としてのコミュニティ 移動・国

家・運動』京都大学学術出版会 2012:273-309. 査読無

西井涼子「死をめぐる時間 情動(アフェクトゥス)のエスノグラフィにむけて」『時間の人類学 情動・自然・社会空間』世界思想社 2011:62-87. 査読無

西井涼子「時間の人類学 社会空間論の展開」『時間の人類学 情動・自然・社会空間』世界思想社 2011:1-36. 査読無

西井涼子「南タイ騒乱」からみたムスリム 仏教徒関係 東海岸と西海岸の比較から」床呂郁哉・福島康博編『東南アジアのイスラーム 東南アジアのイスラーム (ISEA) プロジェクト成果論集』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2011:65-81. 査読無

[学会発表](計 8 件)

Nishii, Ryoko "Muslim Community in Maesot- Transformation of Da'wa movement", International workshop on Community Movements in Mainland South East Asia, Chiang Mai University, 2014,7-8 March

西井涼子「東南アジア地域研究と人類学」 「地域民族誌の方法論と人類学的空間構想力の可能性の探求」共同研究課題、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2014,2.28.

西井涼子「自己の中の他者」「人類社会の進化史的基盤研究(3)」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究課題、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2013,7.27

西井涼子「『家と人』と村 生のプロセスについての人類学的考察」「思考様式および実践としての現代科学とローカルな諸社会との接合の在り方」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究課題、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2013,5.18.

Nishii, Ryoko "The Da'wa movement in Maesot: the present and the past", International workshop on Community Movements in Mainland South East Asia, Chiang Mai University, 2013,7-8 March.

Nishii, Ryoko, "De-subjectification and re-subjectification in rituals: Muslim-Buddhist relationships in a South Thailand village" CSEAS-ARI Joint Workshop on Reassessing Ritual in Southeast Asian Studies, Sponsored by the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University and Asia Research Institute, National University of Singapore, Kyoto University, 25-26 February.

Nishii, Ryoko "Is a new community emerging? - the social movement in Thailand", Colloque international Explorations anthropologiques sous les perspectives micro/macro, Organisé par Equipe de projet de base anthropologique à l'Institut de Recherches sur les Langues et les Cultures d'Asie et d'Afrique(ILCAA-Kikanjinrui) de l'Université nationale des Études Étrangères de Tokyo Ecole Supérieure d'Art de la Réunion et Département d'Anthropologie de l'Université de la Réunion, Saint-Denis-la Réunion, 2012, 22-23 November.

西井凉子「混沌から秩序へ」「人類社会の進化史的基盤研究(2)」共同研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2011,5.7.

〔図書〕(計 1 件)

西井凉子『情動のエスノグラフィ - 南タイの村で感じる*つながる*生きる』京都大学学術出版会、2013、286

6 . 研究組織

(1)研究代表者

西井 凉子 (NISHII, Ryoko)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：22520816